

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立伊賀白鳳高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「力」と「志」を持った職業人を育成し、地域に貢献できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、判断し、行動する生徒</li> <li>・思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒</li> <li>・専門的な知識・技術を身につけ、未来を切り拓く生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や実習、学校行事やクラブ活動、地域連携等を通して、子どもたちに「育みたい生徒像」に記載した力を育むべく、主体的に行動する教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の充実と自己実現への支援（進路・学力保障、資格取得、部活動等）</li> </ul> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長（基本的な生活習慣、学力、マナー、部活動等）と進路保障</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全学校の持つ資源（専門知識、技術、人、施設等）の提供</li> <li>・地域活性化への貢献 ・防災拠点</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した学校生活を通しての子どもたちの成長（学力、マナー、部活動等）、</li> <li>・進路保障、安心安全</li> </ul> <p>〈企業等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業人、社会人としての素養の獲得（基礎学力、専門知識・技術、マナーコミュニケーション能力等）</li> </ul> <p>〈大学・短大・専門学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学後困らない基礎学力の定着</li> </ul> <p>〈中学校・小学校・保育園等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の専門高校としての役割</li> <li>・系統的なキャリア教育のパートナー</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の持つ資源（専門知識、技術、人、施設等）の提供</li> <li>・地域活性化への貢献 ・防災拠点</li> </ul>	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育への理解と協力</li> <li>・生徒の健康管理</li> </ul> <p>〈企業等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、デュアルシステム等の受け入れ</li> <li>・安定した雇用</li> </ul> <p>〈大学・短大・専門学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より高度で専門的な知識・技術等の獲得</li> <li>・進路先としての生徒の受け入れ</li> </ul> <p>〈中学校・小学校・保育園等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・継続的な指導のための、生徒個々の情報の提供</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育への支援</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学の際の教室や廊下、ロッカー上の清掃、授業態度や、文化祭における体育館での生徒の整列の様子等を見ると、生徒への丁寧な指導が徹底されていることがわかる。引き続きこの指導を続けて、さらに進化してほしい。</li> <li>・（保護者より）「白鳳の先生は丁寧に勉強を見てくれるので、授業が分かり楽しい」と子どもが言っている。成績も上がった。</li> <li>・グラウンドに向かう部活動の生徒が礼儀正しく挨拶をしてくれなので、見ていて気持ちがよい。このことは社会に出てすぐに役立つことである。</li> <li>・進学により地域から出て行った生徒が卒業後に地域にもどって地域の産業を支えてほしい。そのための取組などを充実させてほしい。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の本校に対する一番の期待は進路保障であり、教員は進路ガイダンスや就職先の開拓等に精力的に取り組んでいる。しかし、基礎学力が十分定着していないために就職試験に不合格になる生徒もおり、基礎学力の定着が喫緊の課題となっている。</li> <li>・興味・関心の持てる授業づくりをすすめているが、生徒の学力の幅が大きく、中には授業に集中できない生徒もいる。わかりやすく、生徒が魅力を感じる授業づくりに向けて、更なる授業力の向上が求められている。</li> <li>・外国にルーツを持つ生徒や特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が在籍しており、生徒の人権感覚を磨いていく必要がある。</li> <li>・全ての生徒がすべての分野の実習を体験できることは強みではあるが、反面、専門知識・技術の習得のための期間が短くなってしまいう課題がある。</li> <li>・「若き『匠』育成プロジェクト事業」の取組等により、学科間連携や地域との協働の取り組みはすすんできているが、更なる充実を目指して、引き続き、生徒主体の取組を重視していく必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の基礎学力を身につけないまま入学してくる生徒もおり、教員間で相互に学びあいながら、授業力を一層向上させていく必要がある。</li> <li>・様々な面で支援を必要とする生徒も多く、教育相談の充実、教員間の情報共有と生徒理解、支援体制の充実、家庭との連携等によってきめ細やかな支援が求められている。</li> <li>・職員数の多さや学科の多さが全教職員の意志統一や情報共有を困難にしており、管理職のリーダーシップと風通しの良い職場づくりが課題となっている。また、地域に向けてホームページやマスコミを活用した情報発信を継続していく必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の興味・関心や適性に合った進路を選択し、その実現に向けて、社会で求められる基礎学力、専門知識・技術とともに、社会的マナーやコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成する。</li> <li>・検定合格や資格取得、部活動における成果等を通して、生徒の自信とやる気を引き出し、自己実現に向けて努力する生徒を育成する。</li> <li>・生徒の人権感覚を磨き、思いやりの心を育てる。</li> <li>・学校の教育資源を地域に還元するとともに、地域の教育力を活用し、地域の活性化に貢献できる生徒を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上に取り組む。</li> <li>・生徒の悩みに寄り添い、きめ細やかな教育相談や支援を行う</li> <li>・総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場など、働きやすい職場づくりをめざす。</li> <li>・風通しのよい職場づくりに取り組み、教職員の情報共有をすすめ、全教職員の意思統一を図る。</li> </ul>

## 4 本年度の行動計画と評価

### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力	学校全体として、生徒に漢字力、計算力、コミュニケーション能力(人の話を正しく理解する力、自分の言いたいことを伝える力)をつけさせる <b>【成果指標】</b> 校外模試における成績が昨年度を上回っている。	校外模試のとらえ方を考えていく必要がある。進路指導で主導する方法も模索する。苦手分野を分析して、授業で取り組んでいく必要もある。	◎

専門性追求	より高度な資格取得、検定合格やより高い専門性の獲のために、より早い時期から専門教育が始められるカリキュラムの実現を目指す。 【成果指標】より早い時期から専門の授業が始められている。	1・2年の専門科目が少なく、より早い時期から専門の授業が始められない。一方で今年度、農業でアグリマイスターのシルバー取得者(1名)がいるなどの成果が見られた。	◎
社会的マナー	来客に対する挨拶や学校内外でのマナー、時間管理、制服の着こなし、校内美化を徹底する。 【活動指標】登校時の声掛け運動、清掃指導、集会指導、校内外のマナー指導が徹底されている。 【成果指標】「自ら考えてその場に応じた行動や発言をしたり、マナーを守ったりすることができている」生徒が90%以上。	例年に比べ、制服の着こなし、挨拶等、守られている。清掃については、何のために掃除をするのか、といった面からも指導が必要である。	※
進路指導	進路ガイダンスや相談、情報提供及びキャリア教育によって、早い時期から自己に適した進路を主体的に選択できる力を養う。 【活動指標】学年別進路ガイダンス、「進路だより」、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等が有効に活用されている。 【成果指標】「就職・進学について自己実現ができた」3年次生徒が90%以上。学校斡旋を希望する生徒の内定率100%、進学希望者の100%希望実現。	就職・進学ともに、100%内定・合格と、大変良い結果であった。しかし、一部生徒は進路決定に対して目的意識を持たずに決めてしまっている。早期離職や辞退とならないように、より一層充実したキャリア教育が必要である。	※
検定合格・資格取得	資格取得や検定合格に向けての支援を強める 【活動指標】検定対策として勉強会や補習が実施されている。 【成果指標】検定や資格の合格数が昨年度より増加している。	各種検定、資格試験に向けて意欲的に取り組む生徒が多く見られた。今後も勉強会や補習等を学校全体の取組として郁必要がある。	※
部活動	部活動を通して競技力の向上を図るとともに、人間力の向上を目指す。 【成果指標】団体3種目以上、個人10人以上が東海大会に出場。	陸上部のみならず、他の競技やメカトロニクス部など文化系部活動も充実した活動と結果になってきている。	
人権学習	人権LHR等を通して生徒の人権感覚を高める。 【活動指標】少なくとも1つの学年で人権LHRの公開や事前・事後検討が行われている。 【成果指標】「人権学習を通して『自分の大切さと共に他人の大切さを認める力』を高めることができた生徒が90%以上。	人権学習に向けて、3学年とも1回以上の事前検討会を持つことができた。 学校アンケートでは80%以上の生徒が高めることができたと答えている。	
学科間連携・地域連携	生徒が地域に出て学ぶ機会や地域の方の校内での指導の機会を増やすとともに、生徒を主体とした学科間連携に取り組む。 【活動指標】昨年度に比べ、生徒を主体とした取組が増えている。 【成果指標】生徒の満足度が上昇している。	地域との連携や学科間連携が増え、生徒が学校内外に出て生き生きと活躍する姿が多く見られた。地域からの要望も増え、昨年より多くの連携事業を実施したが、地域の要望に十分応えられない面もある。	◎

改善課題

検定・資格の取得や学科間連携により、徐々に結果が出ている。進路保障の点から、生徒の基礎学力の向上のために、各学科でより一層の工夫が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	<p>教員相互の授業見学や授業研究、生徒の「授業振り返りシート」の活用を通して、「わかる授業」「魅力ある授業」を構築する。あわせて授業規律を徹底する。</p> <p>【活動指標】全ての教員が1回は他の教員の授業を見学している。全ての教科で、「授業振り返りシート」が活用されている。</p> <p>【成果指標】「意欲的な態度で授業に取り組めた」生徒が85%以上。) )</p>	<p>授業規律が乱れつつある教科もあり、一層の見直しが必要である。また、授業相互見学や、授業振り返りシートが生かされていなくともあり、次年度に向けて何らかの方策を考えていく必要がある。</p> <p>85.8%</p>	◎  ※
相談活動	<p>生徒の小さな変化を見逃さず、悩みに寄り添った教育相談を行うとともに、支援を必要とする生徒についての情報共有や生徒理解、家庭との連携をすすめ、支援を強化する。</p> <p>【活動指標】スクールカウンセラーによる相談や関係者による情報交換会が有効に活用されている。) )</p> <p>【成果指標】教育相談に係る生徒満足度が昨年度よりも上昇している。) )</p>	<p>関係職員による、気になる生徒に係る情報交換会を定期的開催し、早期発見、早期対応につなげている。生徒に関する課題が多様化、深刻化しているところから、外部機関との連携をさらに進める必要がある。</p> <p>H27 71.1% → H28 71.1%</p>	※
安心・安全	<p>実習やクラブ活動等における安全の確保や交通事故防止に力を入れる。</p> <p>【活動指標】ヒヤリハットの事例を全員が共有し、危機管理意識を持って行動するとともに、ヒューマンエラーをカバーする仕組みを検討している。交通安全指導が徹底されている。</p> <p>【成果指標】登下校時や実習時の重大事故が発生していない。</p>	<p>幸い大きな事故は起きていないが、常に危機管理意識をもって、事故防止に努める具体的な方策を実践することが必要である。</p>	
働きやすい職場づくり	<p>総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】デスクネッツ等で代替できるものについては、会議がリストラされている。勤務の振り替え等が有効に活用されている。</p> <p>【成果指標】教員満足度が昨年度より3%以上上昇している</p> <p>風通しのよい職場づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】全教職員がデスクネッツによる情報共有を行うとともに、職場の中に相談しやすい雰囲気がある。管理職が頻りに準備室等を訪れ、対話を行っている。</p> <p>【成果指標】昨年度に比べ情報共有が進んでいると感じる教職員が増加している。</p>	<p>各分掌で、仕事をチームで行う改善が進んでいる。さらに、分掌を超えた連携の充実が必要である。</p> <p>会議のさらなる精選や事務処理の見直しを進めて、職員の多忙化解消を図っている。</p> <p>管理職と職員との対話の時間を更に確保して、管理職の意思の浸透と職員の思いの反映を充実させる必要がある。</p>	
情報発信等	<p>学校の取り組みや生徒の様子などを保護者や地域に発信するとともに、要望や意見を聞く機会を設ける。</p> <p>【活動指標】ホームページが頻りに更新されている。自治会だよりの発行やマスコミへの情報提供が</p>	<p>新聞等マスコミに学校が取り上げられることが増えて、本校の取組が確実に地域に理解されるようになってきている。</p> <p>引き続き、マスコミ等や地域への情報</p>	※

	<p>頻繁に行われている。</p> <p>【成果指標】昨年度より多くの方がホームページにアクセスしている。</p> <p>生徒が保護者や地域、中学生等に向けて学習成果を発表できる機会を設ける。</p> <p>【活動指標】「白鳳 Cafe」や実習製品の展示、販売、中学生による見学会等が有効に活用されている。</p> <p>【成果指標】イベント等への参加者の数や満足度が、昨年度に比べ上昇している。</p>	<p>発信を質・頻度ともに充実させる必要がある。</p> <p>H27 84.6% → H28 85.5%</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

- ・さらなる授業改善を目指して、教員相互の授業見学や研究授業を充実させる。また、ICTの活用やアクティブラーニングの活用が、生徒主体であり、かつ、学校全体のものとなる必要がある。
- ・全職員による情報共有や意思の疎通を十分に行うとともに、一部の職員に校務の負担が集中しないようにする必要がある。
- ・特別な支援を必要とする生徒が増加している傾向がある。一人ひとりの生徒に対する指導等について、全職員で情報共有と具体的な対応を実践する必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>・最近の子どもたちの中に、直接面と向かったのコミュニケーションが苦手であったり、メンタル的に弱い子も多く、生徒のやる気を引き出す努力、コミュニケーション力を高め、対人関係を良好にするための取組が必要である。一部とは言え、早期離職する生徒がいる中で、目的意識、向上心を高める取組が対策改善につながると考える。</p>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用やアクティブラーニングの活用等、授業力を向上させる取組を行い、わかる授業を通して、生徒の興味関心を高める方策を考える。</li> <li>・生徒を主体とした学科間連携を通して、コミュニケーション力を高める方策を考え、地域との連携を密にして、発信する力を養っていく。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無遅刻、無欠席で卒業し、達成感、充実感が得られた生徒も多くいた。引き続き、マナー指導の徹底、あいさつ運動の強化に取り組み、学校生活満足度の上昇をめざす。</li> </ul>